



instax Biz™ 動画テンプレート作成

はじめに

アプリで使用可能な動画形式および注意点	2
---------------------	---

素材動画の撮影(グリーンバック撮影)

撮影環境	4
撮影機材設定と画角	5

動画テンプレート作成

リサイズ・クロップ	7~10
再生時間調整(カット編集)	9
オーディオの削除	12
クロマキー(透過)処理	13~15
Apple ProResでの書き出し	16~17
iOS向けデータ変換 HEVC Video with alpha での動画保存(MacOS機能使用)	18
Android向けデータ変換 WebMでの動画保存(FFmpeg ツール使用)	19

オプション

テンプレート(静止画のデザイン枠)を重ねる手順	21
境界部に色かぶりが残る場合	22
アニメーションgifの動画変換	23~26
動画最終フレームの静止画保存	27
静止画の背景透明化	28

はじめに

アプリで使用可能な動画形式および注意点

● instax Biz™アプリで使用可能な動画形式

アプリに取り込める透過動画仕様

ファイル形式	mov(iOS) / webm(Android)
ファイル容量	100 MB 以下
画像の縦横サイズ	instax™ mini:600x800 pixel instax™ SQUARE:800x800 pixel instax™ WIDE:1260x840 pixel
動画の長さ	3-10 秒
フレームレート	60 fps 以下

● 動画テンプレート機能を使用する際の注意点

テンプレート 作成時

- 動画を読み込んだ場合は、静止画、QRコード、日付は追加できません。
- 動画テンプレートのプレビュー再生は可能ですが、レイアウト調整などの編集はできません。
- 動画テンプレートは同じOSの端末間でのみ共有できます。iOS 端末とAndroid端末間の共有はできません。

撮影時

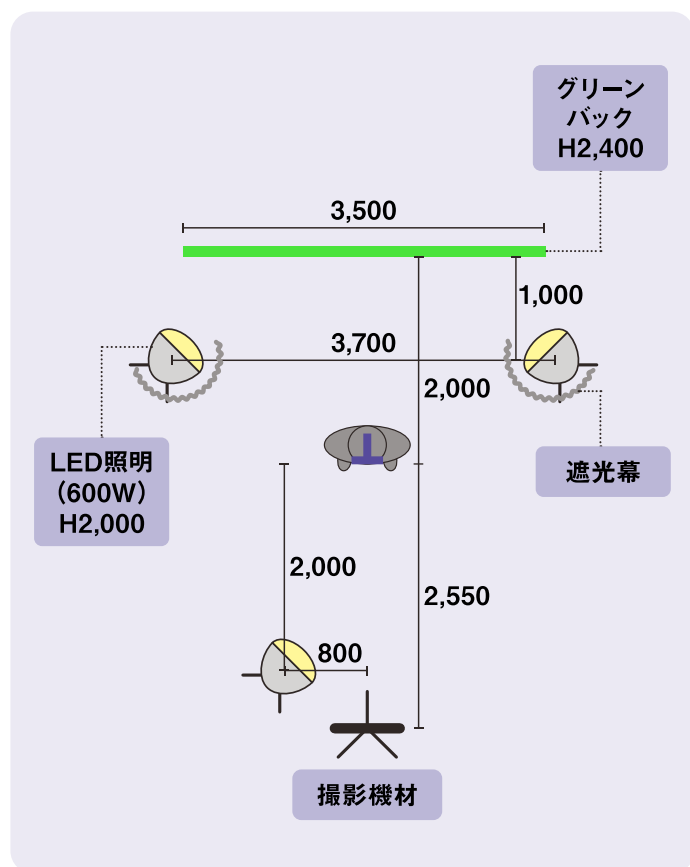
- 動画テンプレートの再生中は他の操作はできません（セルフタイマー使用時と同等）。

※ランダム撮影、カメラ/フラッシュ/タイマー切替、色補正（自動/手動）、プリント履歴は使用可能です。

素材動画の撮影(グリーンバック撮影)

素材動画の撮影(グリーンバック撮影)

撮影環境



モデル用の照明

人物にまんべんなく照明が当たり、グリーンバックに影が落ちないようにする

iPad・カメラ

被写体の背景がグリーンバックからはみ出さないような距離・画角とする

カメラマンの掛け声例

音声収録しない場合
カウントアップでタイミングを伝える
1、2、3、4、5 (歩き出す)
6、7.....15、カット!

音声収録する場合
手でカウントアップしタイミングを伝える

ポイント

実際は5秒程度の使用となりますが、トリミングを考え後半は長めに収録しておく

グリーンバック用の照明

グリーンバックに均一に照明が当たるのが望ましい (ムラが出るとうまく透過処理ができない)

服装

グリーンバックと色相域が被るような服や物は身に着けない

遮光幕

モデルに影響が出ないように遮光幕をつける

立ち位置

モデルの立ち位置に印をつける

グリーンバックに関してのポイント

モデルの衣装やユニフォームがグリーン系やグリーンが使われている場合はブルーバックなど変更する

素材動画の撮影(グリーンバック撮影)

撮影機材設定と画角

1. 撮影機材の設定を高画質モードに設定すると、編集時にトリミングによる画質低下が軽減されます。

iPhone, iPad の場合: 設定>ビデオ撮影>4K/30 fps、さらに「ホワイトバランスをロック」をONにする。



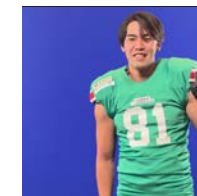
2. 画角はできるだけ広めに撮影すると編集時のトリミング調整がしやすくなります。



miniサイズ



SQUAREサイズ



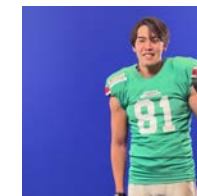
画面が窮屈となり、お客様の入る場所が狭くなってしまう。



miniサイズ



SQUAREサイズ



ポーズもわかり安くなりトリミングもしやすい。

動画テンプレート作成

動画編集環境

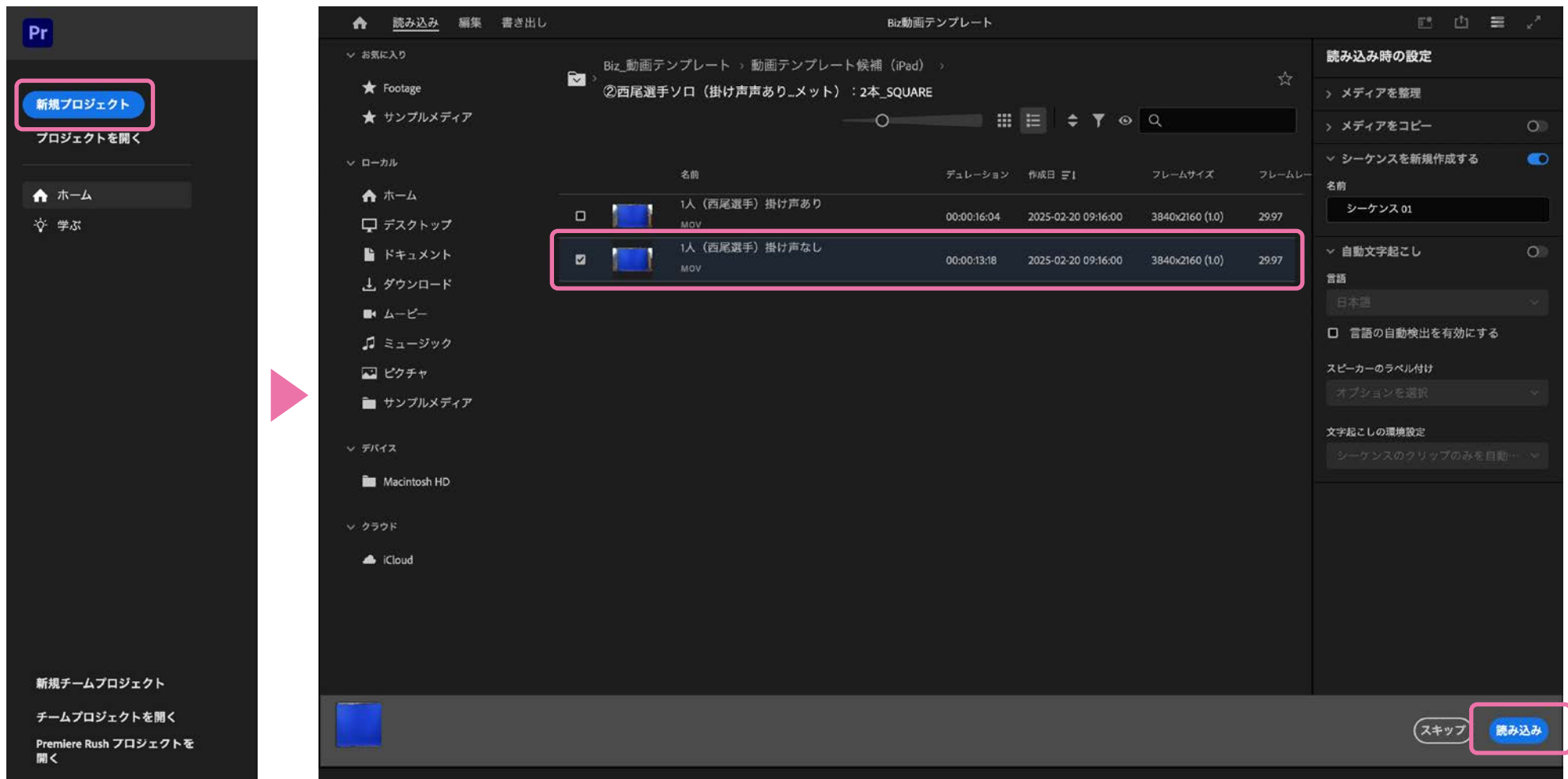
- Adobe® Premiere® Pro (Windows/Mac)
- MacOS ※ HEVC Video with Alpha出力に必要

※ Adobe®製品のスクリーンショットは、Adobe®の許可を得て転載されています。

動画テンプレート作成

リサイズ・クロップ

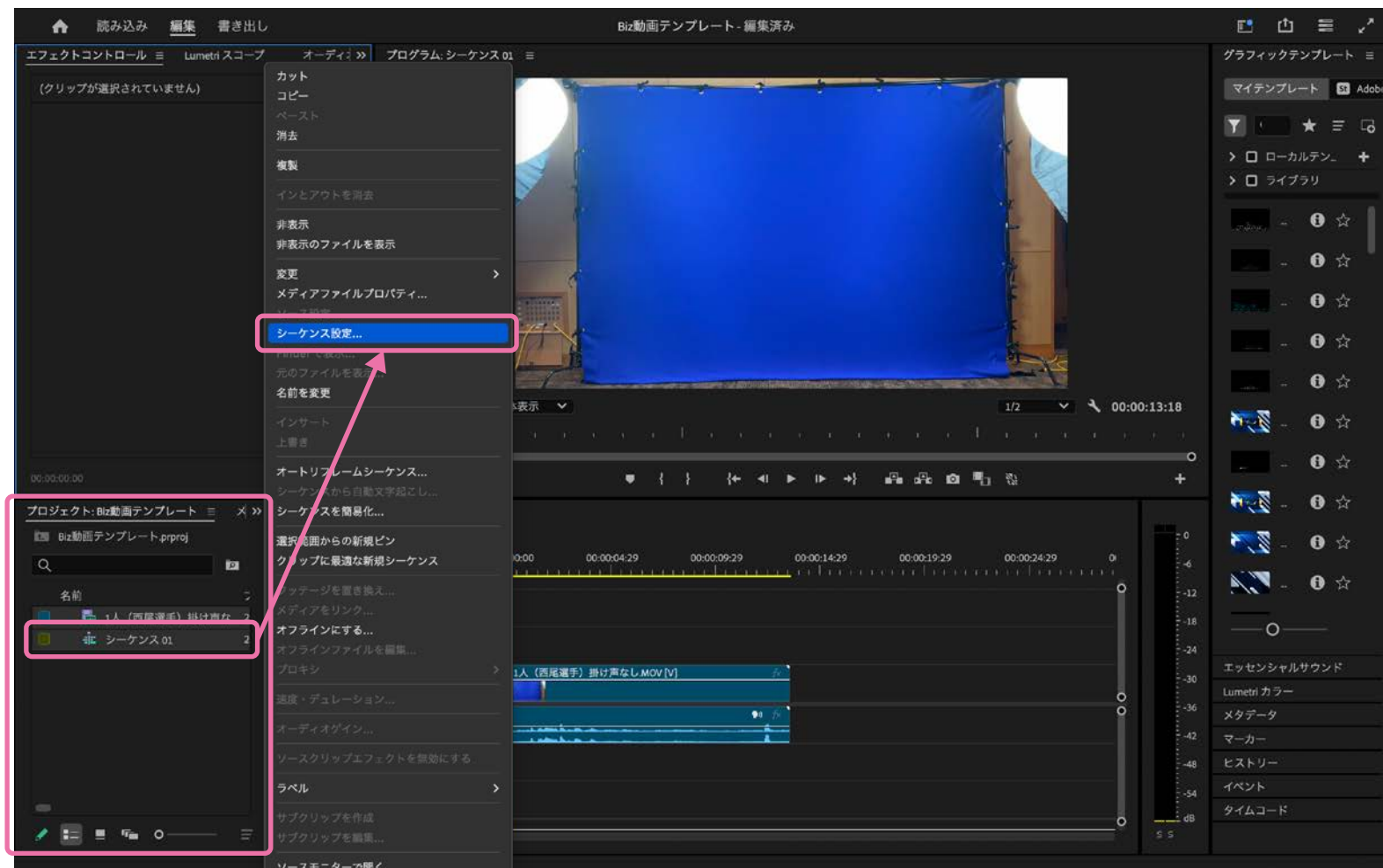
1. 「新規プロジェクト」から撮影動画をAdobe® Premiere® Proにロードし、「読み込みボタン」を押下する。



動画テンプレート作成

リサイズ、クロップ

2. 「プロジェクト」エリアの撮影データを右クリックし、「シーケンス設定」を開く。



動画テンプレート作成

リサイズ・クロップ

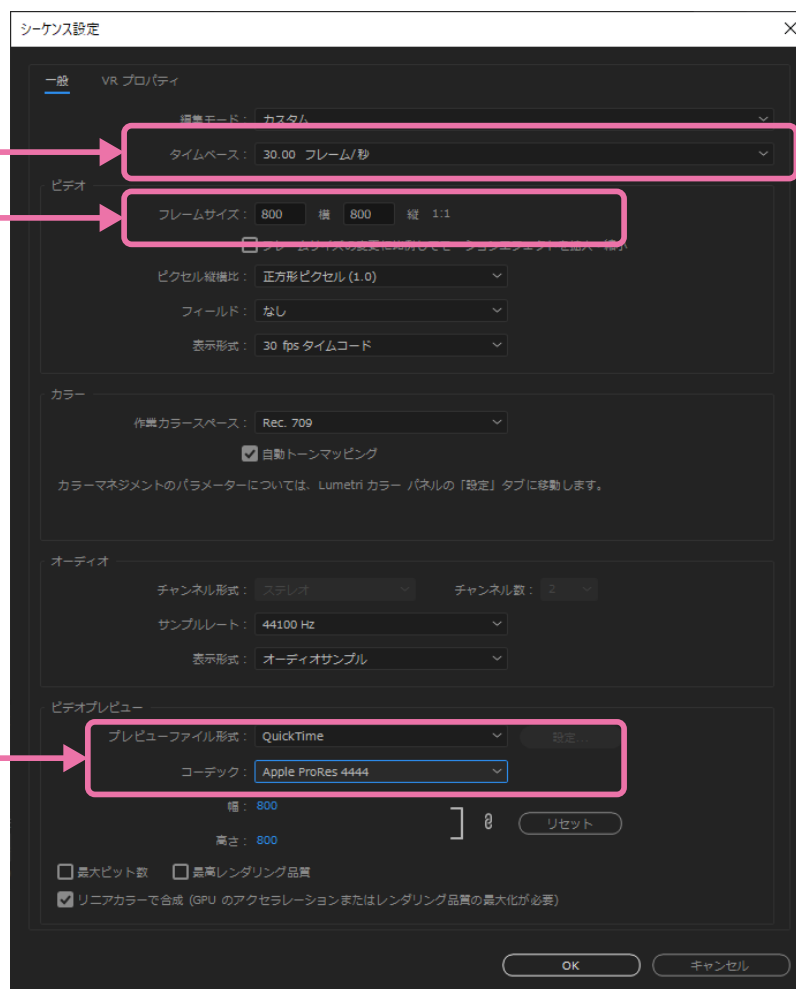
3. 「シーケンス設定」ダイアログで「タイムベース」、「フレームサイズ」、「プレビューファイル形式」、「コーデック」を指定する。

フレームレートを設定

解像度 (テンプレートのサイズ) を

mini film用 600×800pixels
SQUARE film用 800×800pixels
WIDE film用 1260×840pixels

プレビューのコーデックは、
アルファチャンネル付き
(ProRes 4444) とする

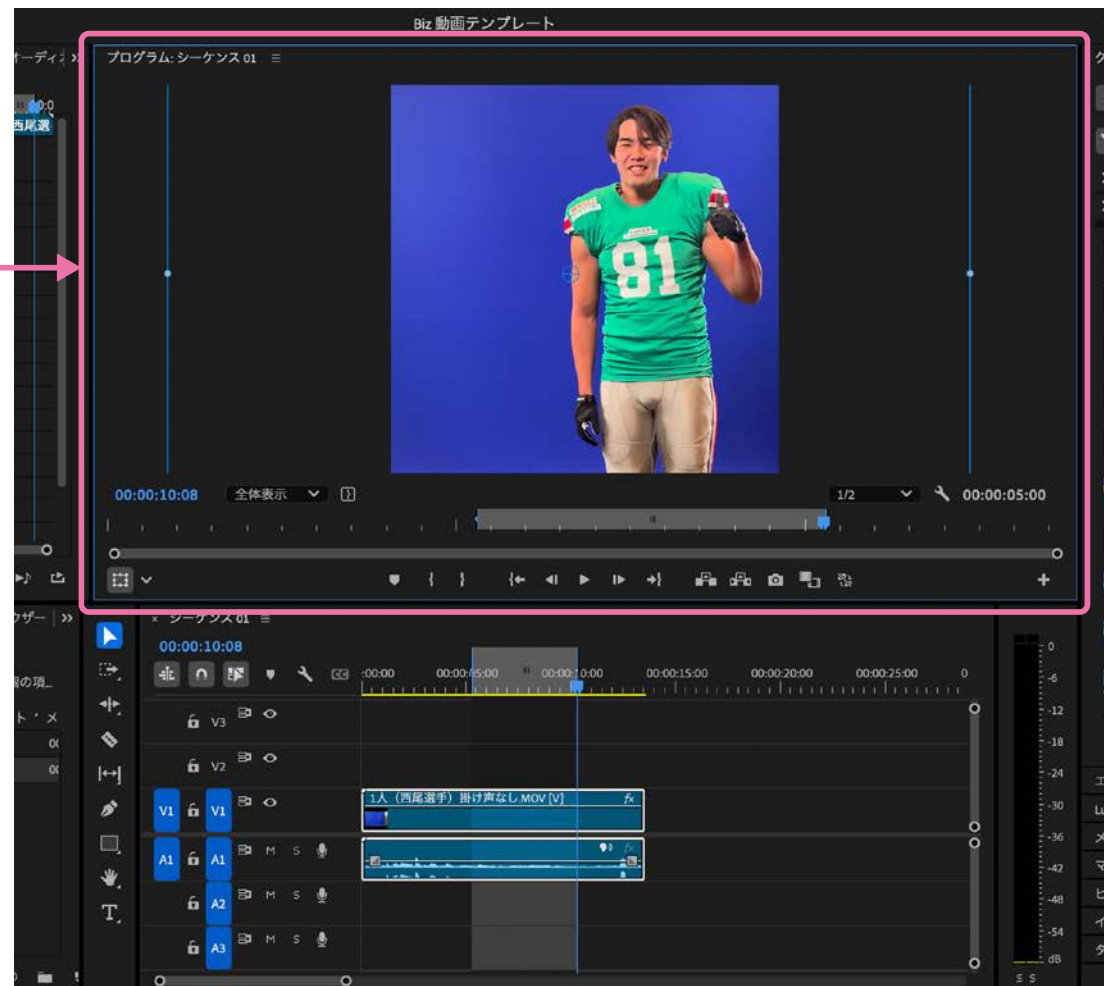


動画テンプレート作成

リサイズ・クロップ

4. メインエリア(プログラムパネル)でプレビューをダブルクリックし、グリーンバックと被写体の位置が先に指定したinstax Biz™テンプレートサイズに合うように画角・構図を調整する。

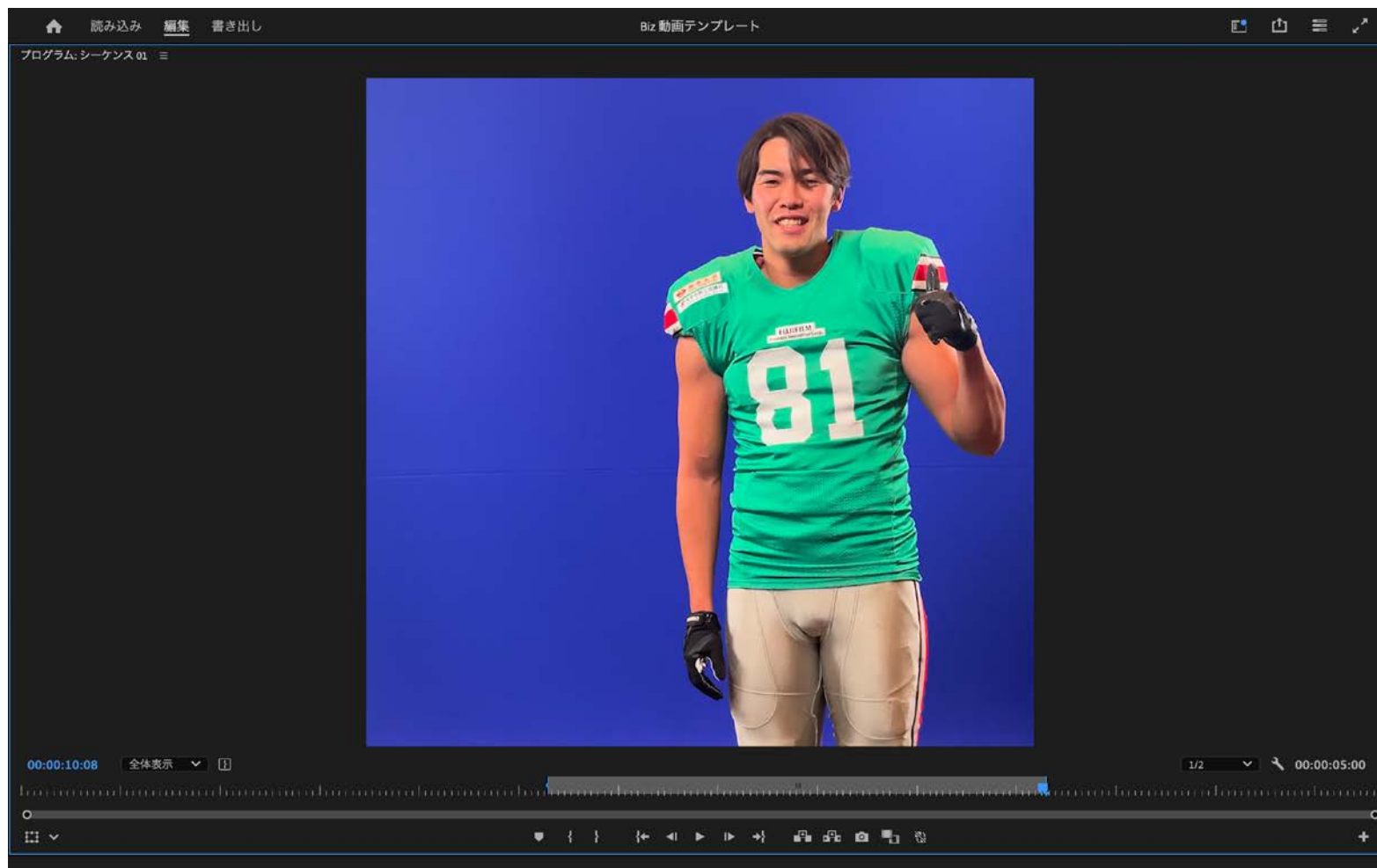
ダブルクリックで調整棒(青棒)が表示される青棒が出た状態でプレビューを動かして位置を調整する



動画テンプレート作成

再生時間調整(カット編集)

1. instax Biz™のテンプレート用の動画として、クリップの再生時間が3-10秒(5秒程度を推奨)になるようにカット編集する。
2. クリップの最終フレームは、instax Biz™で撮影した写真の最終構図となるようにする。(必ず被写体が写りこんでいる構図)

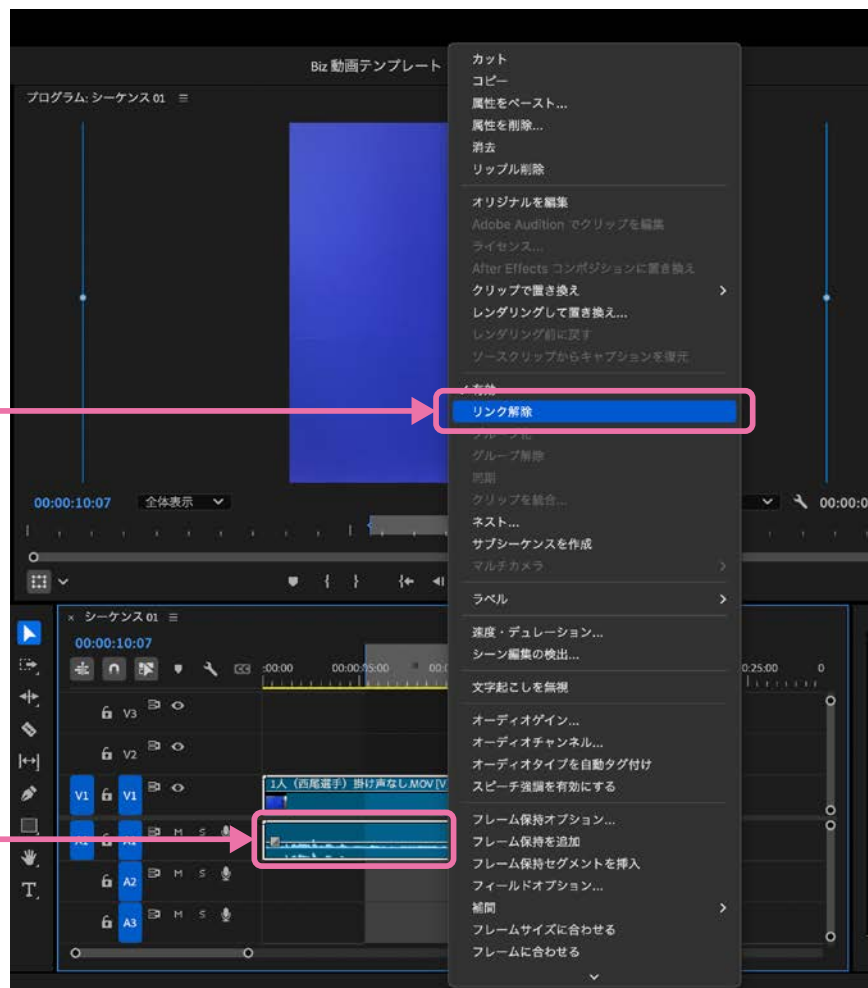


動画テンプレート作成

オーディオの削除

1. タイムラインからクリップを選択し、コンテキストメニュー（右クリック）から、「リンク解除」を選択する。
2. クリップの映像とオーディオのリンクが解除されるので、クリップのオーディオ部分のみをDeleteキー等で削除する。

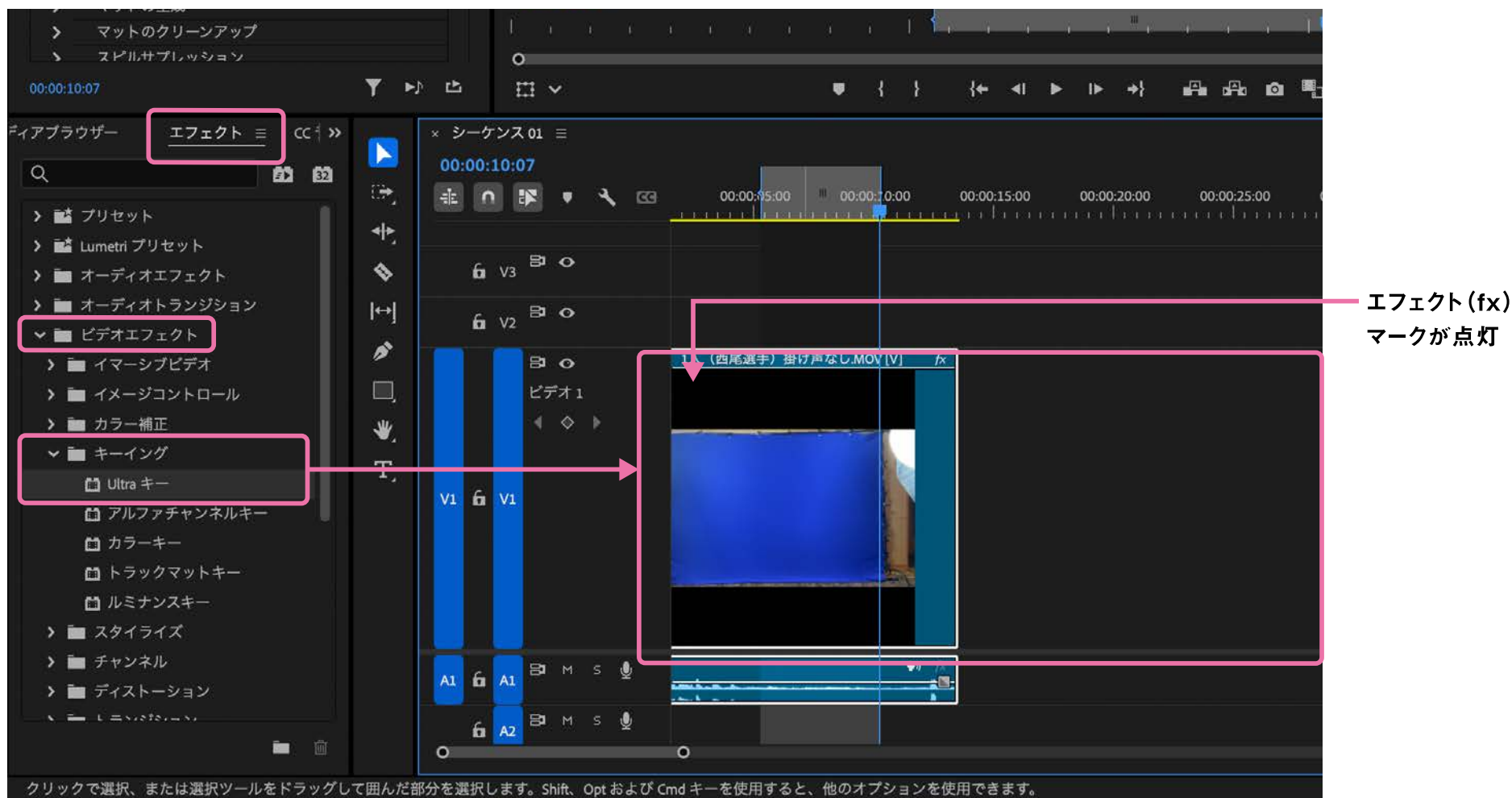
リンクの解除後、
オーディオは削除



動画テンプレート作成

クロマキー (透過) 処理

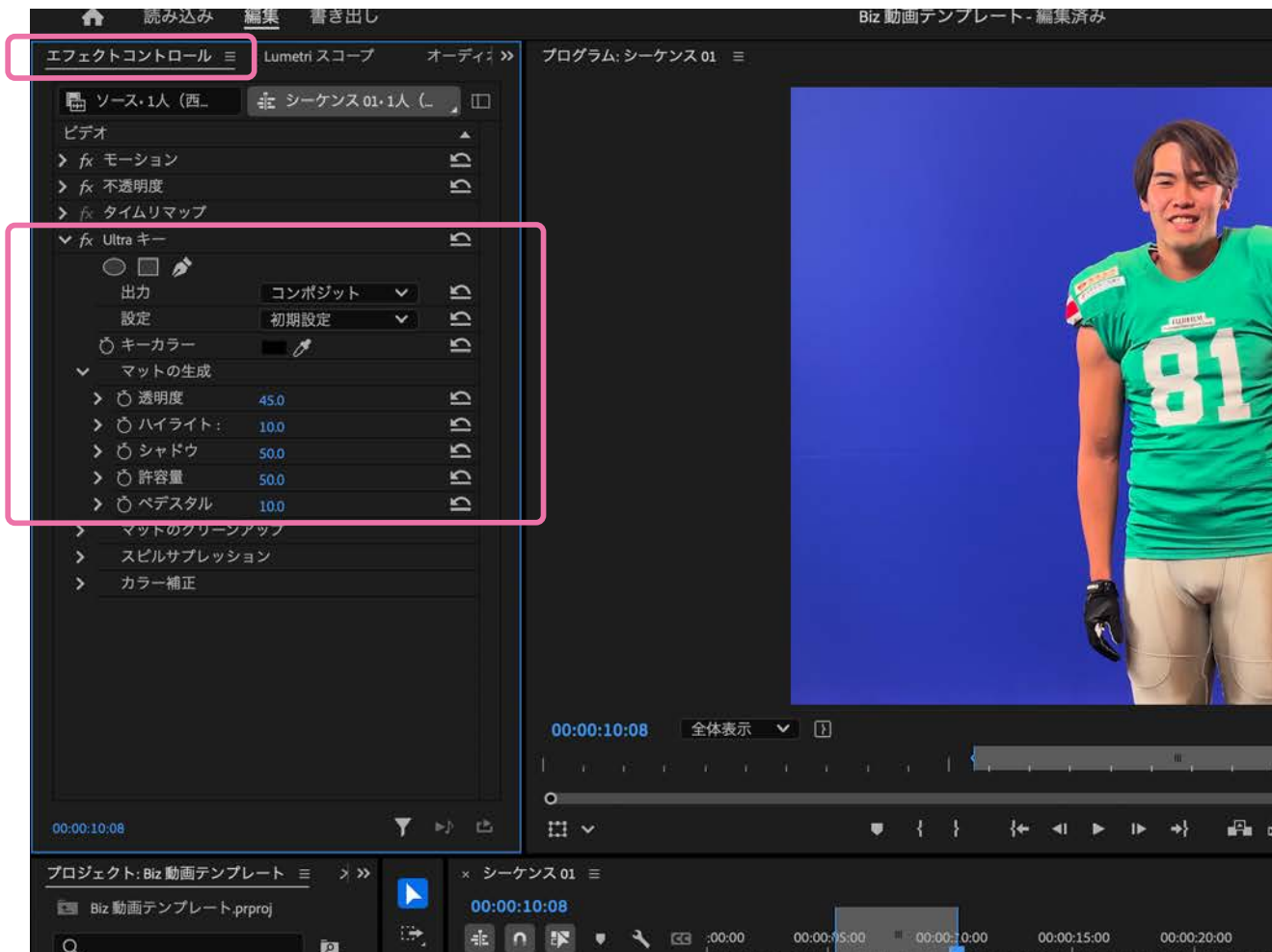
1. プロジェクトパネル (画面左下エリア) から、「エフェクト」タブを選択し、「ビデオエフェクト」から、「キーイング」→「Ultraキー」を選択する。
2. 「Ultraキー」項目をタイムラインのビデオクリップ上にドラッグアンドドロップする。



動画テンプレート作成

クロマキー(透過)処理

3. タイムラインからビデオクリップを選択し、ソースパネル(画面左上エリア)で「エフェクトコントロール」を選択する。
4. 「エフェクトコントロール」の「Ultraキー」メニューと、その下の「マットの生成」サブメニューを開く。



動画テンプレート作成

クロマキー(透過)処理

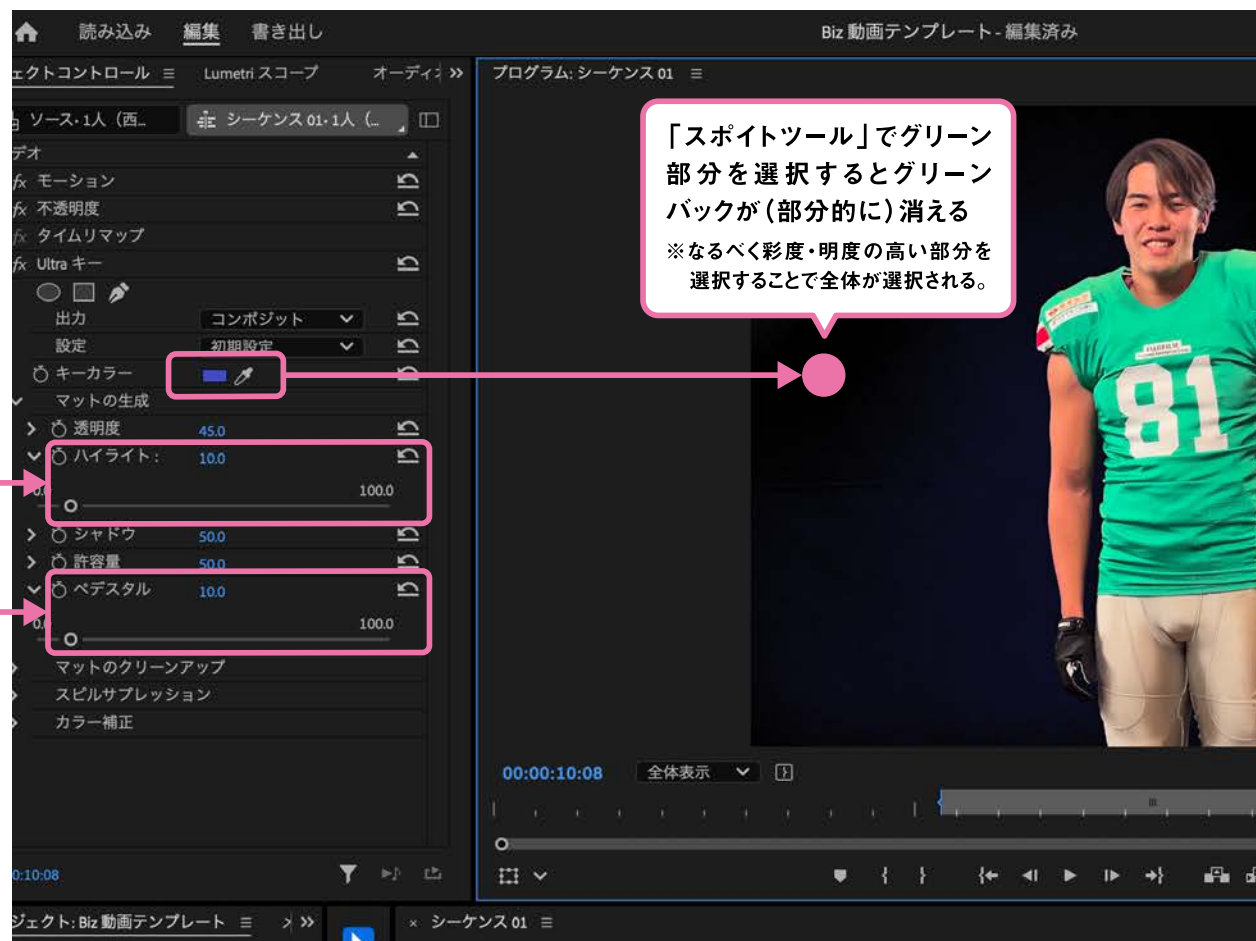
5. 「Ultraキー」のスポイトツールを選択し、プログラムパネル(画面右上エリア)のグリーンバック部分を点選択すると、グリーンバックが消える箇所が表示されるので、画面のグリーンバック部分全体が消えるポイントを探し、「スポイトツール」の点選択を繰り返す。

6. 「マットの生成」サブメニューから「ハイライト」「ペデスタル」メニューを開き、グリーンバックのグリーン部分が均一な黒に塗りつぶされるようにハイライト値、ペデスタル値をそれぞれ調整する。

この時点でプロジェクトを保存すると、Adobe® Premiere® Pro内では、黒部分がアルファマスクとして保存される。



後はアルファチャンネルを保持したまま、動画を書き出せば完成。

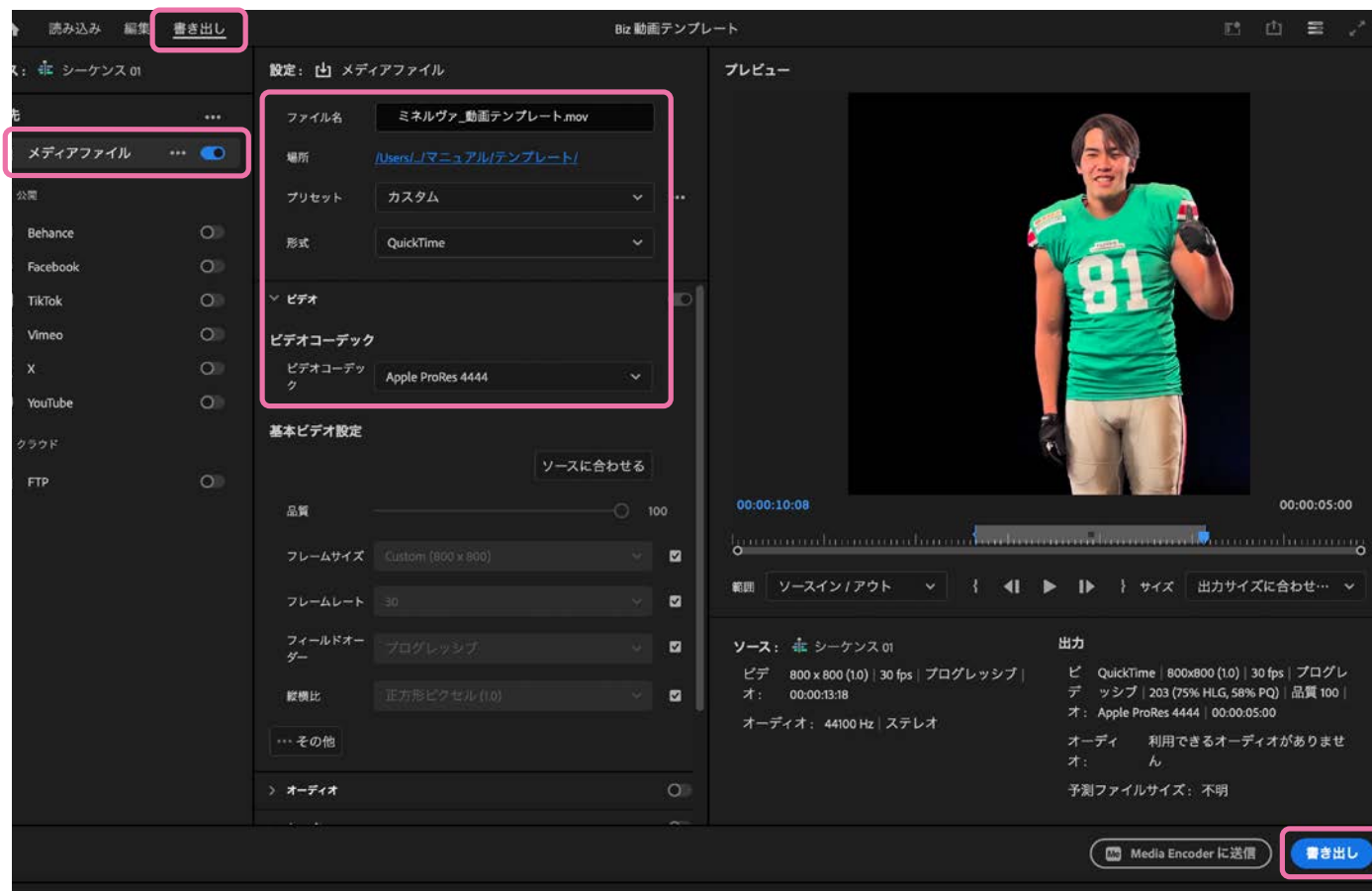


ハイライトとペデスタルを微調整し、消えムラが無くなるように調整する。
(タイムラインを動かしながら確認)

動画テンプレート作成

Apple ProResでの書き出し

1. Adobe® Premiere® Pro の「書き出し」タブを選択し、保存先を「メディアファイル」にする。
2. 「ファイル名」と「場所」で保存先を指定し、「プリセット」を「カスタム」、「形式」を「QuickTime」、「ビデオコーデック」を「Apple ProRes 4444」にする。
3. 「基本ビデオ設定」欄から、「オーディオ」、「キャプション」、「エフェクト」、「メタデータ」の表示を OFF にし、「ビデオ」の表示を ON にする。



動画テンプレート作成

Apple ProResでの書き出し

4. 「ビデオ」の設定を以下の通りとする。

ビデオコーデック	Apple ProRes 4444
基本ビデオ設定	ソースに合わせる
カラースペースを書き出し	Rec.709
ビット数	16bpc + アルファ

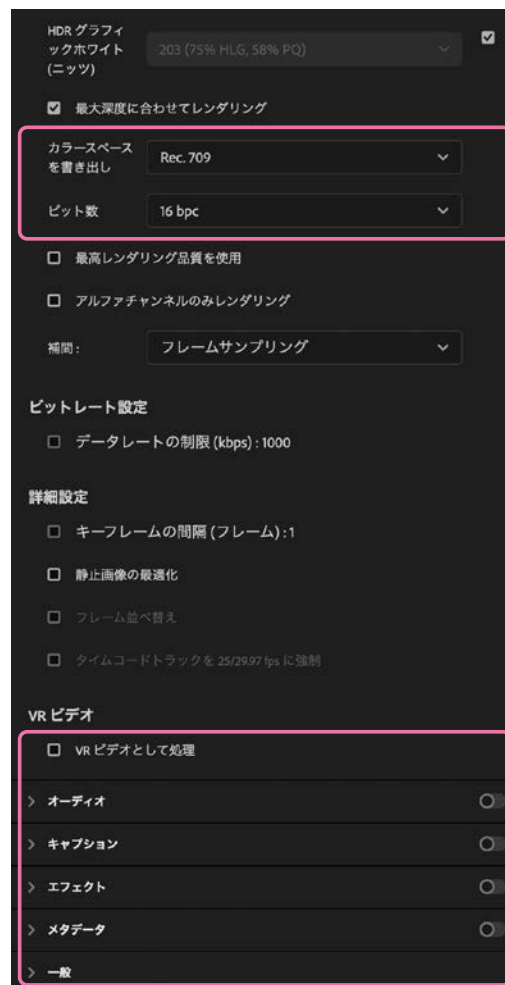
5. 「範囲」を「ソース全体」もしくは、
「ソース イン / アウト」とし、
「書き出し」ボタンをクリックする。



背景透明化した、Apple ProRes 4444
(QuickTime .mov) の動画ファイルができる。

iOS向けデータ変換 ▶ P14

Android向けデータ変換 ▶ P15



※ Apple ProRes 4444は、WindowsメディアプレーヤーやVLCプレーヤーでは再生できないが、Adobe® Premiere® Pro / After Effects®、DaVinci Resolveを使えば再生可能

動画テンプレート作成

iOS向けデータ変換

HEVC Video with alpha での動画保存 (MacOS機能使用)

1. Adobe® Premiere® Pro で書き出した Apple ProRes 4444 形式の動画 (.mov) ファイルを MacOS のマシンにコピーする。
2. MacOS の Finder 上で Apple ProRes 4444 形式の動画 (.mov) ファイルを選択し、コンテキストメニュー(右クリック)から「選択したビデオファイルをエンコード」を選択する。
3. 「メディアをエンコード」ダイアログで、「設定 :」を「HEVC 1080p」「透明度を保持」として、「続ける」ボタンを押下する。



※ MacOS のコンソールから以下のコマンドを実行するのと同じ操作

```
$ avconvert --preset PresetHEVC1920x1080WithAlpha -s ./tmp.mov -o ./output.m4v
```

1. Adobe® Premiere® Pro で書き出した Apple ProRes 4444 形式の動画 (.mov) ファイルから、FFmpeg を使用して WebM ファイルを書き出すことができる。
2. 下記コマンドで WebM ファイルの書き出しを実行する。

```
$ ffmpeg -i ( 入力ファイル <ProRes 4444 などの透過動画 >) ( ファイル名 ).webm
```



その他、FFmpegで使用可能なオプション

- r (N) : フレームレートを指定
- plays (N): 再生回数を指定
- f (format): 変換先フォーマットを指定

入力ファイルにアルファチャンネルが含まれていれば、出力もアルファチャンネル付きとなる。

オプション

オプション

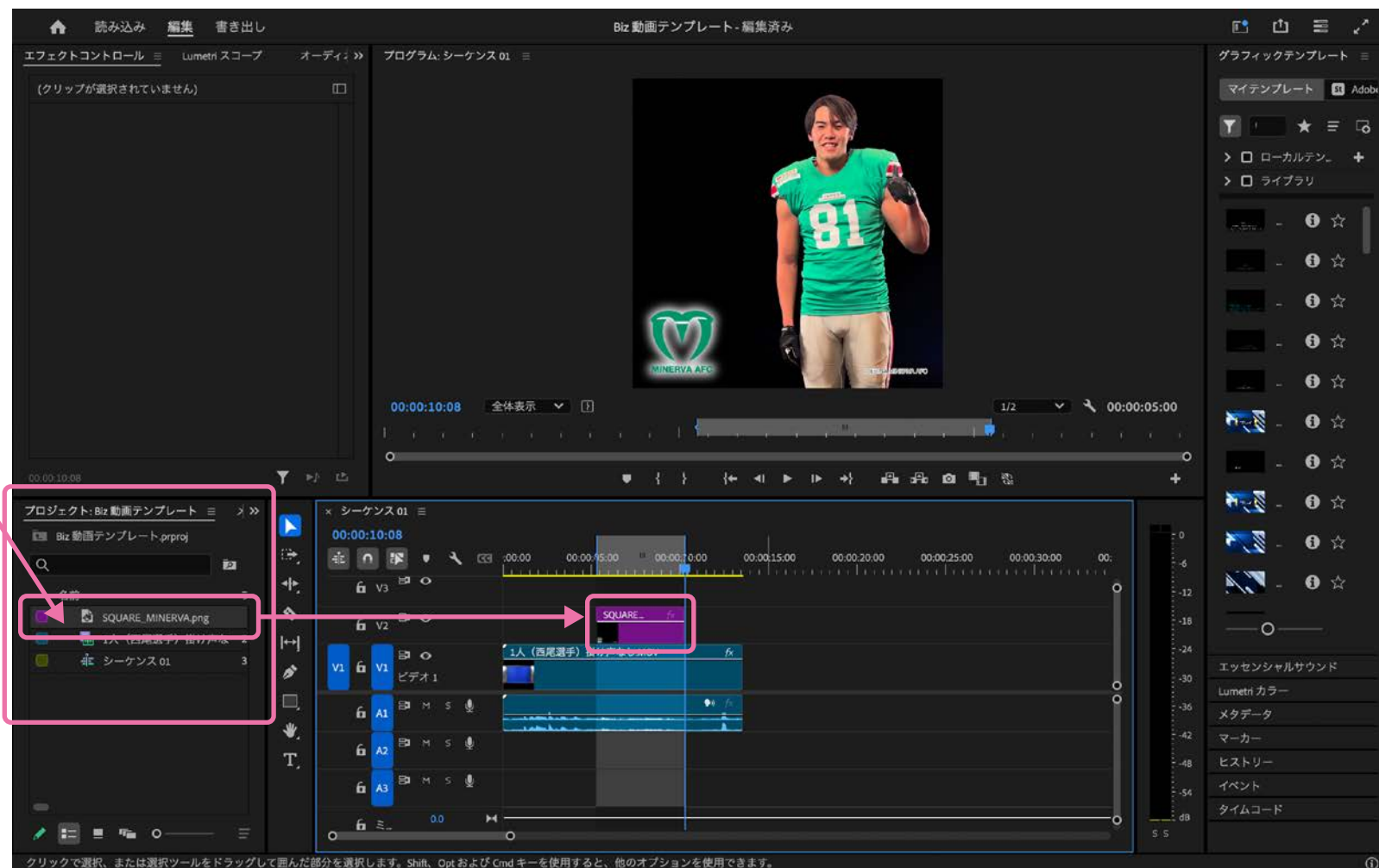
テンプレート(静止画のデザイン枠)を重ねる手順

1. プロジェクトパネル(画面左下エリア)にテンプレートデータを読み込む。
2. テンプレートファイルをシーケンスパネルの「ビデオ1」の上にドラックアンドドロップ。

テンプレートデータ



SQUARE_MINERVA.png

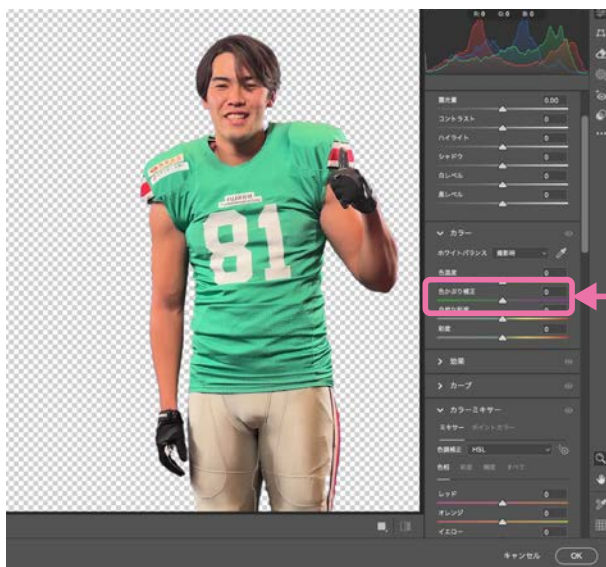
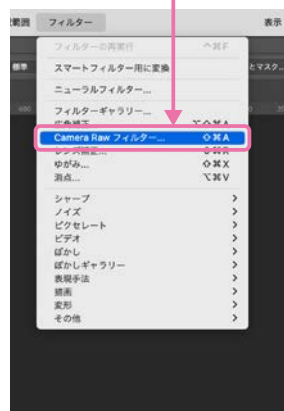


境界部に色かぶりが残る場合

被写体画像のレイヤーの下に新規レイヤーを作成し、色被りが目立つ補色(紫や赤など)や黒で塗りつぶすと、人物と背景との境界線に色被りがあるかどうかわかりやすい。

1. 「フィルター」メニューから「Camera Raw フィルター」を選択する。
2. 「カラー」サブメニューから「色かぶり補正」のスライダーを右(紫方向)に調整し、「OK」ボタンを押下する。
→ これで色被りが補正できれば、画像を保存する。
(撮影条件に問題がなければこの時点で境界部分の色かぶりは除去できる)色被りが取り除けない場合は、3.4. の手順を続ける。

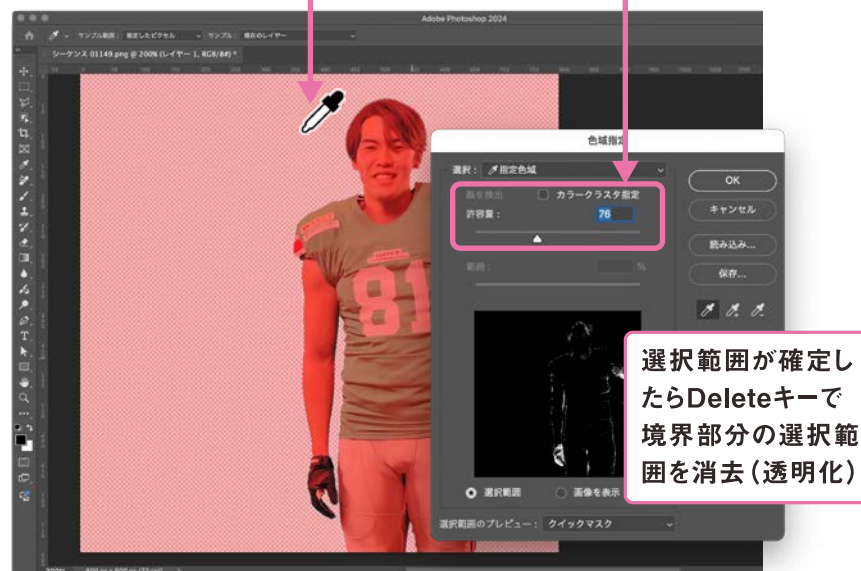
Camera Raw フィルター



3. 「選択範囲」メニューから「色域指定…」を選択し、「スポイトツール」から色被りしている箇所を選択し、「許容量」スライダーを調整して、色被り部分が選択されるようにする。
4. Delete キーを押して、選択範囲を消去する。

「スポイトツール」で
グリーン部分をクリック

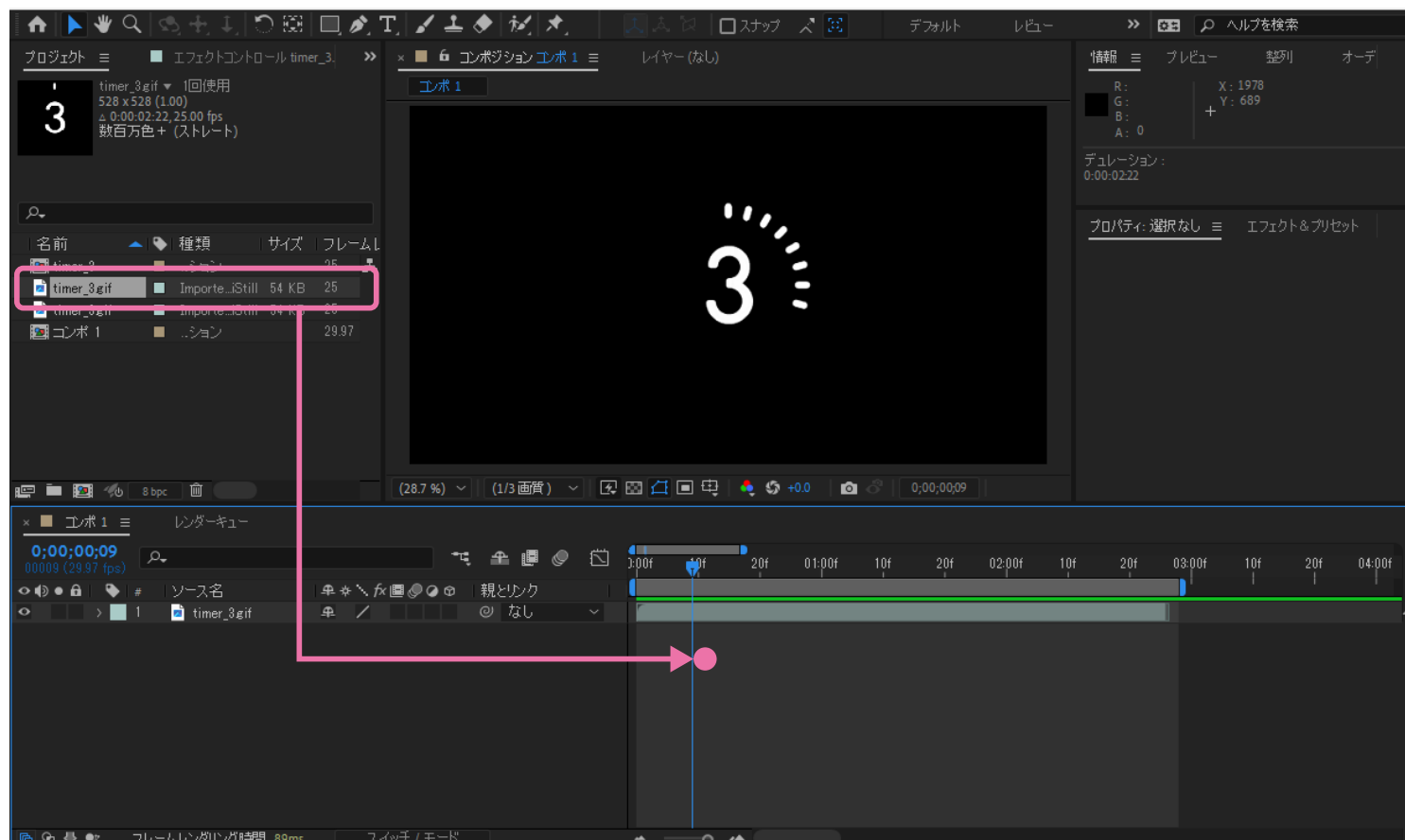
選択したグリーンの
色範囲をスライダーで調整



タイマーアニメーションgif動画変換

- After Effects® (Windows/Mac) を使用
- instax Biz™ アプリのタイマー画像の変換に利用

1. アニメーション gif ファイルを After Effects® に読み込む。
2. 読み込んだアニメーション gif ファイルを、タイムライン(右下エリア)にドラッグする。
3. タイムライン上で映像を出力したい時間の長さに編集する。



Tips!

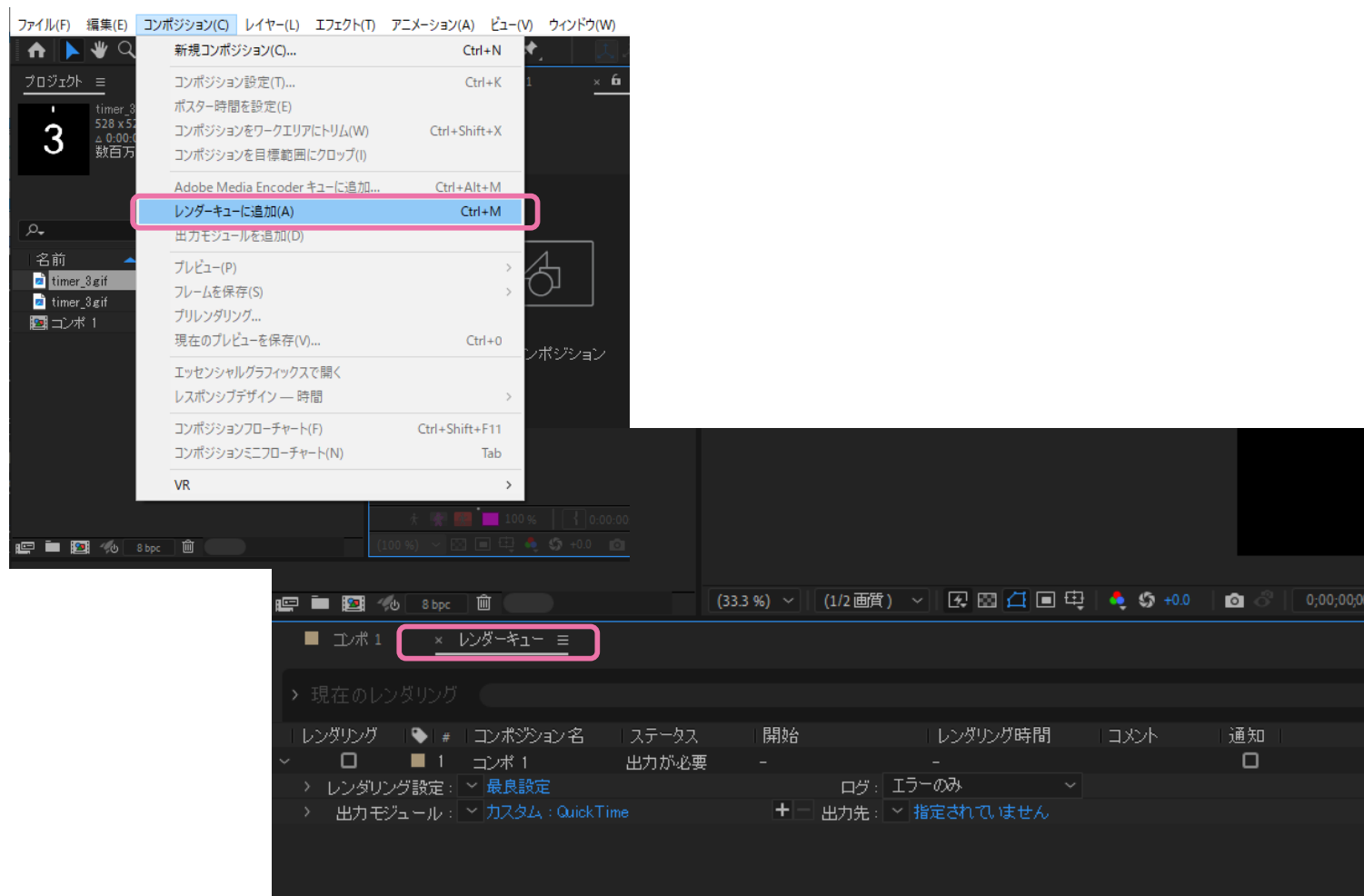
instax Biz™アプリで撮影時に「インカメラ反転モード」を使用する際は動画テンプレートが左右反転した状態で再生されます。「インカメラ反転モード」を使用する場合は、タイマーアニメーションを入れない、または、左右反転して入れることを推奨します。

また、タイマーアニメーションを入れない場合は、音声を追加するかアプリの「設定」>「動画撮影タイマー設定」で、シャッタータイミングをお知らせすることができます。



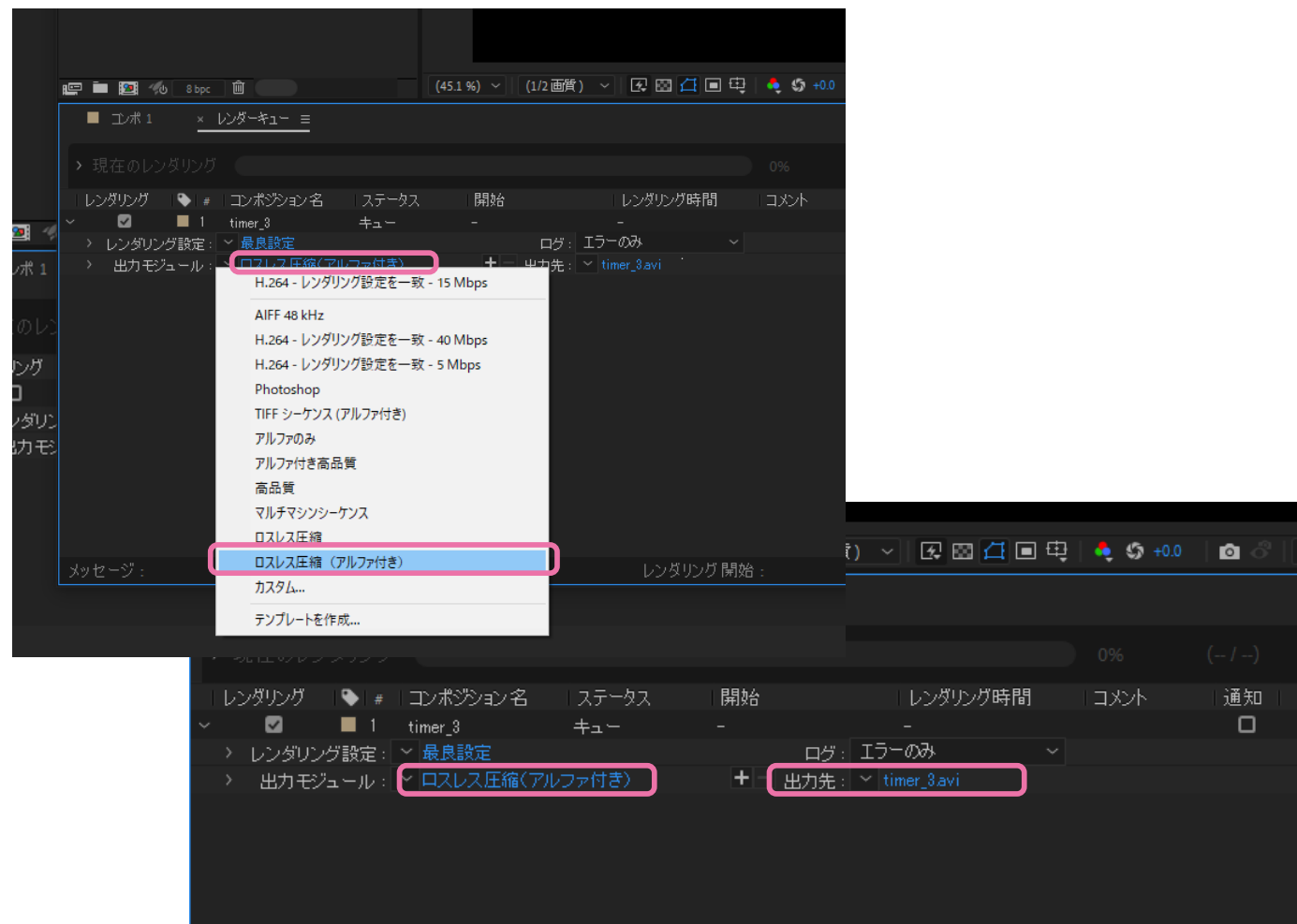
タイマーアニメーションgif動画変換

4. 「コンポジション」メニューから「レンダーキューに追加」を選択する。



タイマーアニメーションgif動画変換

5. タイムラインの左ペインで
「レンダリング」タブを選択する。
6. レンダリングタブで
「出力モジュール」を
「ロスレス圧縮(アルファ付き)」
に設定し、
「出力先:」に保存先の
ディレクトリとファイル名を
選択する。



タイマーアニメーションgif動画変換

- 設定した「ロスレス圧縮(アルファ付き)」文字列をクリックし、詳細パネル(出力モジュール設定)を表示する。
- 出力モジュール設定画面の「メインオプション」タブの設定内容を以下の通りに設定する。

形式	QuickTime
レンダリング後の処理	なし
ビデオ出力	チェックする
チャンネル	RGB + アルファ
色深度	数百万色+
カラー	合成チャンネル(マットあり)
オーディオ出力をオフ	選択する

- 「レンダリング」ボタンを押下する。

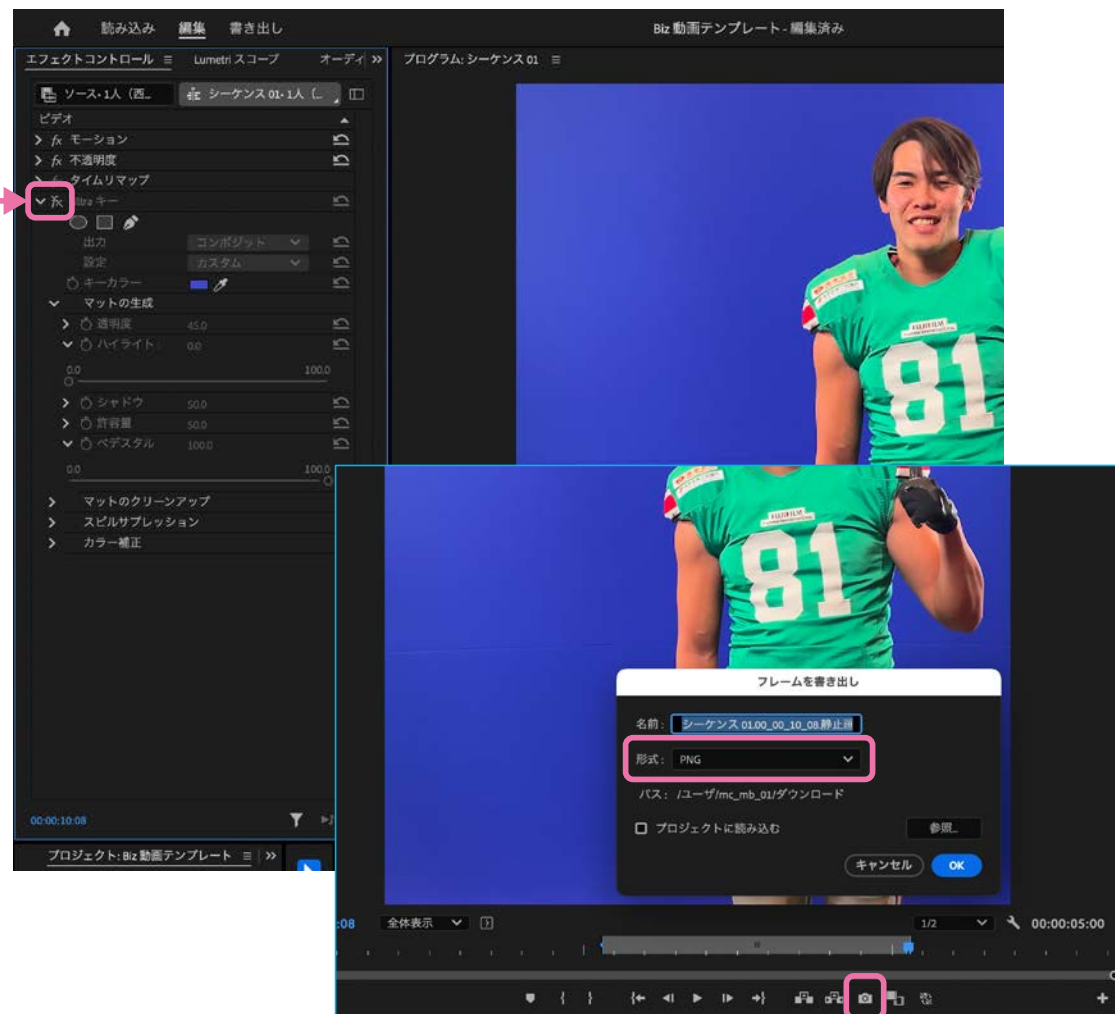


動画最終フレームの静止画保存

- After Effects® (Windows/Mac) を使用
- Adobe® Photoshop® (Windows/Mac) を使用
- instax Biz™ アプリのテンプレート最終合成写真に利用

1. Adobe® Premiere® Pro で作成した背景透過動画のフレームを選択し、タイムラインの最終フレーム(静止画出力したいフレーム)を選択する。
2. ソースパネル(画面左上エリア)で「エフェクトコントロール」タブを選択し、「Ultra キー」サブメニューの文字列左にある「fx」マークをクリックし、グリーバックを表示させる。
3. プログラムパネル(画面右上エリア)のカメラマークアイコン(= フレームを書き出し)をクリックする。
4. 「フレームを書き出し」ダイアログで「形式」を「PNG」にして、保存先を選び、「OK」をクリックする。

このアイコンをクリックすると、Ultraキーのエフェクトが非表示となる

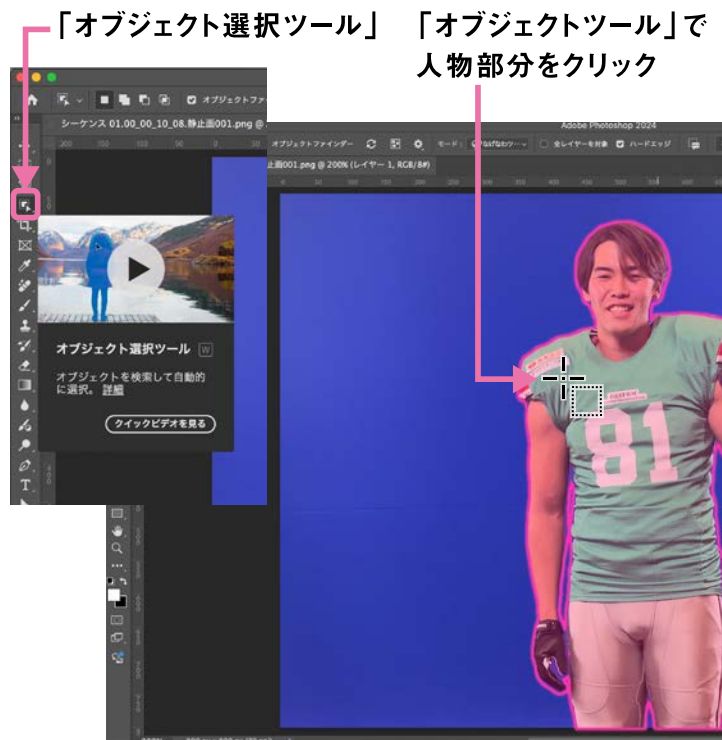


静止画が PNG で保存される。

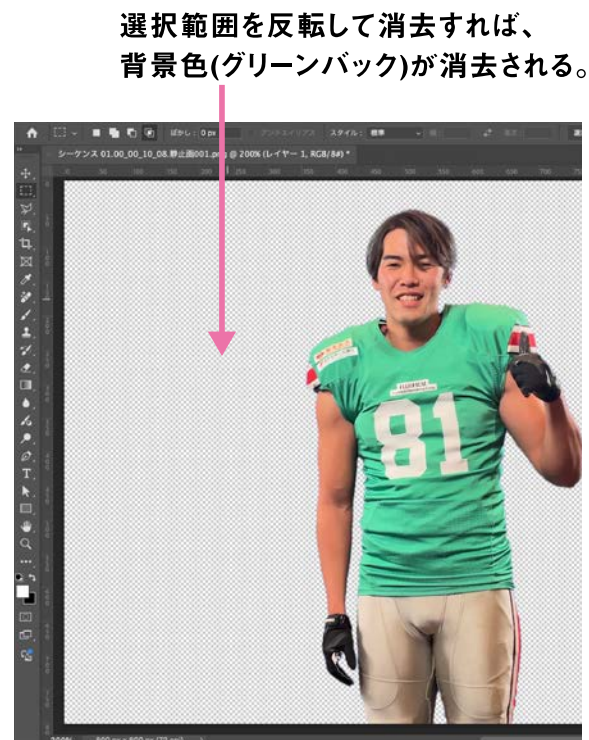
カメラアイコン押下で選択フレームの静止画保存ができる

静止画の背景透明化

1. 動画の最終フレームから出力した静止画を Adobe® Photoshop® で開く。
2. 「オブジェクト選択ツール」で被写体部分をクリックすると、人物部分が選択される。



3. 「選択範囲」メニューから「選択範囲を反転」を選び、Delete キーを押して背景部分を消去する。



4. 「ファイル」メニューから「書き出し」-「PNG としてクイック書き出し」を選択し、背景が透過した PNG 画像を保存する。

